

白雲段一匹 木紅段一匹

藍段一匹 青段二十四

腰刀五把 扇三十把

大青盤二十個 小青盤四百個

硫黄二千五百斤

右、暹羅国に咨す

天順八年（一四六四）八月初九日

礼儀の事

通事紅英を差わす

注\*〔四一〇三〕総注を参照。

（1）達古是 〔四一〇六〕によれば達固是。

（2）緑玄段 あるいは緑雲段の誤りか。

1-41-05

琉球国王より満刺加国あて、誦詩等を遣わして速やかな交易を請う咨（一四六四、八、九）

琉球国王、礼儀の事の為にす。

謹んで満刺加国王殿下に咨す。窃かに謂うに、信を結び盟を修むるは乃ち交隣の大典にして、有を以て無に易うるは誠に相生の要道なり。恭しく惟うに、賢王、踐祚するや寛仁大度にして、沢

は群生を被い、名は列辟に揚ぐ。嚮者使を遣わし彼に適き殊方の土宜を貿易せしむ。荷くも衆をして協成し且つ侵漁して自ら利せず、宅心は公恕にして交隣輯和せしむるを蒙り、仍お饋恵を承く。何ぞ忘る可けんや。茲に于て復た正使誦詩・通事蔡回保を遣わし、咨文及び回奉の礼物を齎し、庸て区区たる芹忱を表し、実に少しく万一に酬いん。亦た微貨有りて前來す。尚お望むらくは、遠人を寛洪し買売し早やかに回帰するを与さば利便ならん。永く惟い遐かに慕う。所有の徑咨は鑑納するを幸惟う。無文を異しむ勿れ。須らく咨に至るべき者なり。

今礼物を開す

各色段五匹 青段二十四

腰刀五把 扇三十把

大青盤二十個 小青盤四百個

青碗二千個

右、満刺加国に咨す

天順八年（一四六四）八月初九日

一、差わす勝号船 杜固麻沙里 正使誦詩 通事蔡回保

注（1）賢王、踐祚 マラッカ国王マンスールIIシャーの登位をさす。

『明実録』によれば、前国王（ムザファールIIシャー）の明朝に対する朝貢は景泰六年（一四五五）七月で終り、その後、天順三年（一四五九）に蘇丹芒速沙（スルタン・マンスール・

シャートの漢字表記) が朝貢し、明朝は彼をマラッカ国王に封じ、故王を論祭するための使者を遣わした(六月戊午、八月丙寅の条)。

(2) 列辟 歴代の天子。

(3) 嚮者使を遣わし [四一〇一] 参照。

(4) 宅心 気がまえ。

(5) 蔡回保 家譜にこの滿刺加国への派遣の記事があり、天順七年となつてゐるが誤りであろう(『家譜(二)』二五〇頁)。

(6) 径咨 用件のみの咨文、の意か。

#### 1-41-06

琉球国王尚徳より暹羅国あて、崇嘉山等を遣わして前年の遣

船二隻の消息をたずね、公正な交易を請う咨

(一四六五、八、一五)

琉球国王尚徳、謹んで暹羅国王殿下に咨す。

嘗て聞く、饋献の典は交隣より出で、貿易の方は足用に本づく。

恭んで審らかにするに、貴国は恩徳の崇、風化の大あり。屢々珍

賂を回恵し、及び人船を寛恤するを蒙り、感激して勝えず。此の

為に特に正使崇嘉山を遣わし、通事田泰等と共に人船を管駕し、

咨文・礼物を齎捧し詣前して賢王殿下に奉獻せしめ、以て遠意を

表す。万望むらくは海納すれば幸甚なり。旧歳、正使達固是を遣

わし、正使亜斯美等と共に海船二隻に坐駕し、礼を齎して詣獻せ

しめ、永く前盟を固くす。其の船二隻、或いは彼に在りて買売の遅延せるに因るや、未だ何事に因るを致すやは知らざるも、今に至るまで未だ本国に回らず。伏して冀わくは賢王殿下、上は先祖王列位の義を重んじて交を深むるを体し、其の禁約を寛め、其の懷来を尽さんことを。乞う、属に令行して早やかに貿易を与し、風迅に趕趁して回国せしめんことを。四海一家を盟結し永く往来を通ずれば便益ならん。今、奉獻の礼物を將て開坐し移咨す。照驗して施行するを請う。須らく咨に至るべき者なり。

今開す

緑雲段一匹 桃紅雲段一匹

白雲段一匹 藍雲段一匹

葱白雲段一匹 素青段二十匹

腰刀五把 扇三十把

大青盤二十個 小青盤四百個

青碗二千個 硫黄二千五百斤

右、暹羅国に咨す

成化元年(一四六五)八月十五日

礼儀の事

一、差わす 吾刺麻魯舟 正使崇嘉山 通事田泰

注\*本文書と次の(四一〇七)はどちらか一方が使用されたものと思われ。